

夏季研修会の報告

北河内養護教育研究会 枚方市養護教育研究会共催

日時 8月4日(水)1時より枚方市養護教育研究会総会
1時30分より講演会

場所 枚方市教育文化センター

テーマ 特別支援教育は子どものより確かな把握から始まる
～アセスメントを手がかりに
子どもの位置から指導する～

講師 子どもの教育研究所の所長
上嶋 恵先生

暑い中、87名の参加がありました。上嶋先生の27年間の教師生活での実践や、現在活動されている周辺児童への指導の実践から、つまづきのある子どもたちへのみたてや支援の方法を具体的な話を交えて講演していただきました。

しんどい子どもをどう変えていくか！？
何か方法を見つけよう。子どもたちに合った指導方法を見つけ、子どもの見方を変えると子どもは明らかに変わっていく。伸びていくのです。

子どもたちのしんどい部分(原因)や指導方法を探すときの手段としてWISC-Ⅲ、K-ABCなどの発達検査を実施する。それによって客観的なデータをもとにその子に合った個別学習の方向を探っていく。

今ケアしてやることで、二次障害を防ぐことができるしその子が自信を持って自立することができるのだ、というお話でした。

アセスメントを手がかりに、子どもの得意なこと、生きている能力を使って指導することが成長を促す近道である。また、教師自身、日々探究心を忘れずに、子どもの課題を探っていくことで、子どもが変わり、子どもが変わっていくと保護者の協力も得ることができるということがとても印象に残りました。





講演会についての感想



高機能自閉症についてのことが、ある程度理解できた。

具体例を多く出していただいたので大変分かりやすかった。精神論(頑張りとかやる気)だけでなく、検査等することによって、実際に行動・指導する大切さを再認識しました。

後半のビデオの部分すごく良かった。「子どもを変える」という言葉に、始めは反発を感じたが、話を聞いているとなるほどと思った。わたしにも子どもを変えるだけの知識が欲しいと思った。

優れているところをのばすというところ、それで自信をつけるということ。将来の目的が「自立して生きること」、そのための「今の教育」が大切と思いました。

発達検査の大切さを改めて知りました。子ども一人一人によって状況はちがうし、わたしらも何に重きを置いて指導していけばよいか日々悩んでおります。今日お話を聞いて、できるところ、力をもとに学習を進めていきたいと思います。

子どもや親のせいにはしない。今一度わたしの心にとめておかなければと思いました。



今後研修したいと思っていること。

K-ABC、WISC 等の検査方法の中身。どういう児童に有効なのかなど知りたい。

K-ABC、WISC の実際の検査の方法や分析などもっと知りたい。

K-ABC、WISC について学習する講座があればしっかり学びたい。

公立の小学校で養護学級在籍児童や在籍していない児童で、軽度発達障害にあてはまる児童の個別指導計画の立て方、作っておられる学校の課程を知りたいです。セルフエスティーム(今日の先生のやはりほめることが大切という話から)を高めていく支援の仕方を研修したいです。

一度に大勢を指導するとしたら、同時にさせることができること、一人ずつ順に対応するとして待たせる間の持たせ方。対1人ならその子だけに集中できるのだけど…

検査の仕方や分析の仕方、さまざまな児童のタイプ別の指導の実践の研修がしたい。いろいろな障害の子が一つの学級にいるため、学年も1年から6年まで7人、一斉学習はなかなかできず、個別に対応しているが、時間数が足りなく一人一人とじっくり学習ができない。何かいい方法はないか。

具体的な手立てをいろいろと実践を交えて教えて欲しい。